

# 平成23年度 開講科目の授業題目・内容と担当教員

## 目 次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
11001	外国語仏教学論著講読	今西 順吉 教授	2
11002	外国語仏教学論著講読	落合 俊典 教授	3
11003	外国語仏教学論著講読	津田 眞一 教授	4
11004	外国語仏教学論著講読	デレアヌ フロリン 教授	5
11005	外国語仏教学論著講読	松村 淳子 教授	6
11006	論文指導	今西 順吉 教授	7
11007	論文指導	落合 俊典 教授	7
11008	論文指導	木村 清孝 特任教授	8
11009	論文指導	津田 眞一 教授	8
11010	論文指導	デレアヌ フロリン 教授	9
11011	論文指導	松村 淳子 教授	10
11012	仏教文献学方法論	落合 俊典 教授	11
11013	仏教文化学方法論	安田 治樹 講師	12
11014	仏教文化学方法論	Giovanni Verardi (客員教授)	14
11015	南・東南アジア仏教文献学研究	松村 淳子 教授	16
11016	南・東南アジア仏教文献学演習	松村 淳子 教授	17
11017	内陸アジア仏教文献学研究	津田 眞一 教授	18
11018	内陸アジア仏教文献学演習	今西 順吉 教授	19
11019	内陸アジア仏教文献学演習	津田 眞一 教授	20
11020	東アジア仏教文献学研究	落合 俊典 教授	21
11021	東アジア仏教文献学研究	木村 清孝 特任教授	22
11022	東アジア仏教文献学演習	落合 俊典 教授	23
11023	汎アジア仏教文化学研究	デレアヌ フロリン 教授	24
11024	汎アジア仏教文化学研究	藤井 教公 講師	25
11025	汎アジア仏教文化学演習	デレアヌ フロリン 教授	26
11026	汎アジア仏教文化学演習	藤井 教公 講師	27
11027	近現代仏教研究	落合 俊典 教授 (代表)	28
11028	近現代仏教研究	木村 清孝 特任教授 (代表)	29
11029	宗教哲学	鶴岡 賀雄 講師	30
11101	日本語 I	杉浦 まそみ子 講師	31
11102	日本語 II	杉浦 まそみ子 講師	32

---

専門科目

---

科目番号	11001
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	月曜日2時限目
担当教員氏名	今西 順吉 教授
授業題目	『中論』研究（継続）
授業の目的・概要	『中論』の著者ナーガールジュナは「八宗の祖」と呼ばれ、仏教史上極めて重要な意義をもつと伝承されているが、『中論』そのものの意義は必ずしも充分には解明されていない。そればかりか、時に『中論』に対する否定的な評価が下されることさえある。そこで、『中論』そのものの解説を進めながら、『中論』が仏教史においてどのように位置づけられるべきかを考察する。その過程で、『中論』がインド思想に対して根本的な批判を加えており、それに対抗するために、インド思想においても新たな展開がなされたことを明らかにする。
授業計画	今年度は『中論』の次の各章を順に取り上げる。第21章、22章、23章、25章、26章、27章、第2章。
授業の方法	『中論』のサンスクリット原典と漢訳・チベット語訳のほか、現代の邦訳・西洋語諸訳を併せて検討する。またナーガールジュナの他の著作（『大智度論』など）やインド思想に関しても、必要に応じてその都度検討する。
成績評価方法	冬学期のレポートに平常点を加味して通年で評価。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	広範囲にわたるため、授業時にその都度提示する。
履修上の注意	『中論』は仏教・インド思想のみならず、現代思想にも密接に関係する。受講生の専門分野は問わないが、深く思索することを求める。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11002
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	木曜日3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	湯用彤著『漢魏両晋南北朝仏教史』第1章の講読
授業の目的・概要	<p>今年度も引き続き、近代中国仏教史学の泰斗湯用彤の『漢魏両晋南北朝仏教史』を取り上げる。前年度まだ講読が終了していない第20章を完遂させてから第1章の講読を開始する。第1章は、仏教の中国伝来に関して諸伝説が取り上げられている。これらの諸伝説の多くは、仏教が中国に定着する過程で案出されたものが多いが、それらが生成される背景や論争を勘案しながら読み進めると裨益されること大である。</p> <p>湯用彤は、欧米の批判的かつ文献学的方法論を取り入れていることからその原典博捜は徹底している。本書を読解していくことによって原典の位置づけとその思想的意味が十分に理解されるようにしていく。</p>
授業計画	<p>当初の授業では、基本的な読解の方法論を、講義室に備え付けてある叢書・全集等を実際に用いることで速やかに身につくようにする。</p> <p>引用原典の同文を比定するために受講者は原文を直接調べることが望ましい。CBETAやSATだけを貼り付けてくることは厳に慎まなければならない。今年度は第1章を読了することが目標である。</p>
授業の方法	『漢魏両晋南北朝仏教史』第1章の各節、各段落を適宜区切り、受講者に分担箇所を示す。それを各自が責任をもって担当し、予習して講読時に発表する。受講生が少ないと毎週担当することになり、相当な負担を強いられるが、この状態こそが講読研究を確立させる有効な方法である。受講生が多数の場合は、自ら積極的に他の受講生の担当分までも予習してくると研究能力は短期間に身につく。
成績評価方法	レポートに平常点を加味して通年評価
テキスト	湯用彤著『漢魏両晋南北朝仏教史』
履修上の注意	関係諸論文は徹底的に集め参照すること。先行研究書を参照して訳注の書式をマスターすること。
連絡方法	メール（アドレスは授業時に通知する）

科目番号	1 1 0 0 3
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4 単位
時限	金曜日 3 時限目
担当教員氏名	津田 眞一 教授
授業題目	M. Zimmermann: A Buddha Within: The Tathāgatagarbhasūtra The Earliest Exposition of the Buddha-Nature Teaching in India, Tokyo2002 講読
授業の目的・概要	本科目はこれまでは内容とその文章表現においてすでに定評のある外国語論著を用いてそれをいわば一つの模範として現に博士(文学)論文を準備しつつある学生が自らの仏教思想理解とその外国語による表現を国際水準にもたすための訓練の場たらしめることを意図してきたが、今年度はその方針に多少の変更を加え、より具体的に、ごく最近外国人研究者によって Ph.D.論文として提出された業績を教材としてそれを精密に読解し、その学的水準を内容とその表現の両面に亘って公平に評価することを通じて、本学において現に博士(文学)学位論文を執筆しつつある学生諸君が自らの学業の進展の位置を計る何らかの指標を得るであろうことを目標として定め、その教材として一つのよき水準を示すものと思われるところの Zimmermann 博士の上記論文を選んで検討することにする。
授業計画	現実に論文を執筆しようとする場合、例に対象が同一でも、それに対する執筆者の問題意識や視点の相違によってその論文の構想や現実はずと全く違うものとなる。Zimmermann 博士の上述論文は、現行のチベット大蔵経所収の『如來藏經』とは別の、それに先行するいわば旧訳的な version をも利用することが出来た、というその立場の独自性に制約されて自ずとテキストの文献学的研究という現実態をとるのであるが、今回われわれは例にそれとは別の、思想的・思想史的興味からする如來藏思想の研究という方向からしたとき、『如來藏經』という同一のテキストそれ自体がいかなる問題設定を要求してくるのか、といういわば一つの実験的な視点から Z 博士の上記論文をその購読の作業を通じて検討する。
授業の方法	Zimmermann 博士の上記論文の章立ての順序を追いつつ、同一のテキストに対するわれわれの思想的・思想史的興味からするならテキスト校訂上のどのような要素が、非本質的な作業として省略しうるのが、また、その内容捉握がその思想的・思想史的背景の展望においてどのような点でその視野を拡充されねばならないのか等の種々の視点から分析し、それらを受講者各自の論文執筆作業の上に批判的に反映させる。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	担当者が適宜準備する。
参考文献	高崎直道『宝性論』講談社 1989 年、 高崎直道『如來藏思想の形成』春秋社 1974 年 高崎直道『如來藏經典』中央公論社 1975 年

履修上の注意	担当者が準備したテキストは事前に配布しておくから、受講者はその和訳を作成しておくこと。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	1 1 0 0 4
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4 単位
時限	金曜日 5 時限目
担当教員氏名	デレアス フロリン 教授
授業題目	Yogācāra Buddhism: Reading Primary Sources and Secondary Literature
授業の目的・概要	<p>The course is designed to help students develop their reading and translation skills for Buddhist primary sources and secondary literature. We shall also work on basic conversational skills as well as expressions and strategies useful for presentations at international conferences.</p> <p>After an introductory part on the history and philosophy of Yogācāra Buddhism, we shall focus on two basic texts of this school, i.e. the <i>Bodhisattvabhūmi</i> 菩薩地 and the <i>Samdhinirmocanasūtra</i> 解深密經.</p>
授業計画	<p><b>Spring Semester</b></p> <p>Classes (1)~(6): Introduction to Yogācāra history and philosophy  (7)~(9): The <i>Bodhisattvabhūmi</i>: Philological and historical background  (10)~(14): <i>Bodhisattvabhūmi</i>, <i>Tattvārthapaṭala</i>  (15): Presentations by students</p> <p><b>Autumn Semester</b></p> <p>(1)~(3): <i>Bodhisattvabhūmi</i>, <i>Śīlapaṭala</i>  (4)~(6): <i>Bodhisattvabhūmi</i>, <i>Dhyānapaṭala</i>  (7)~(8): The <i>Samdhinirmocanasūtra</i>: Philological and historical background  (9)~(14): The <i>Samdhinirmocanasūtra</i>, <i>Byams pa'i le'u</i>  (15): Presentations by students</p>
授業の方法	<p>Primary sources will be read in canonical languages (Sanskrit, Classical Tibetan, and Classical Chinese) and then translated into English. (When available, we shall also compare our rendering with existing translations into English or other modern languages.) As far as secondary sources in English are concerned, students are required to read and translate them into Japanese. This will be followed by a comprehension check and discussion in English. At the end of each semester, each student will be required to present a short essay in English relevant to the subject of the course or to his/her own research.</p> <p>Students must prepare in advance for each class as evaluation is mainly done in accordance with their class performance, i.e. reading and translation skills, active participation in comprehension check and discussions, and essay presentation. Apart from basic reading skills in English, students are supposed to have working knowledge of at least one of the canonical languages relevant to the course (Sanskrit, Classical Tibetan, or Classical Chinese).</p>

成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Handouts with relevant fragments from all works above as well as other materials which I shall prepare will be distributed in class.
参考文献	<p><b>Primary sources:</b>  <i>Bodhisattvabhūmi</i>: Sanskrit text (Wogihara ed. and Dutt ed.) and Xuanzang's translation into Chinese (Taishō Canon)  <i>Samdhinirmocanasūtra</i>: Classical Tibetan translation (Lamotte ed.) and Xuanzang's translation into Chinese (Taishō Canon)</p> <p><b>Secondary Sources:</b>  Erich Frauwallner, <i>The Philosophy of the Buddhism</i>  Paul J. Griffiths, <i>On Being Mindless: Buddhist Meditation and the Mind-Body Problem</i>  Gadjin Nagao, <i>Mādhymika and Yogācāra</i>  Paul Williams, <i>Mahāyāna Buddhism: The Doctrinal Foundations</i> (2<sup>nd</sup> ed.)</p>
履修上の注意	Work hard! 學如不及
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11005
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	月曜日4時限目
担当教員氏名	松村 淳子 教授
授業題目	Die buddhistische Spätantike in Mittelasien の講読
授業の目的・概要	Ernst Waldschmidt によるキジル石窟に描かれている仏教説話の identification, 文献との関係、人物や自然の描写、美術様式についての研究を読み、中央アジアで行われた仏教の一端を理解するとともに、ドイツ語による研究書を読む訓練を行う。
授業計画	ドイツ・トルファン探検隊の概要、トルファン近郊の仏教遺跡分布の地理的概要を理解した上で、Die buddhistische Spätantike in Mittelasien, vol. 6; E. Waldschmidt, "Über die Darstellungen und den Stil der Wandgemälde aus Qzyl bei Kutscha I" を読み、その中で解説されている仏教説話の一つ一つについて、原典テキストと読み合わせて、中央アジアで特に好まれたアヴァダーナ・ジャータカについて知識・理解を深め、仏教史理解の一助とする。
授業の方法	受講者による輪読とし、本文を理解するとともに、内容を批判的に検証する。また引用、あるいは注で言及される文献等について、受講者自身が検証できるように、指導する。
成績評価方法	平常点またはレポートにて通年で評価
テキスト	プリントを用意する。
履修上の注意	予習をしっかりとすること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11006
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	木曜日3時限目
担当教員氏名	今西 順吉 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマの設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11007
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	火曜日3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマの設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講者は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。 このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議を進めていく。
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レベルアップを図る。また、重要資料を図書館や他から取り寄せ、その輪読を行い、実践的かつ厚重的な読書力を養成していく。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
参考文献	随時参考文献を提示するので参照するように。
連絡方法	メール（アドレスは授業時に通知する）

科目番号	11008
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	水曜日5時限目、木曜日5時限目
担当教員氏名	木村 清孝 特任教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に当たり、テーマの設定・研究方法・全体の構成・参考文献の扱い等について、進行の度合いに応じて相談・指導する。
授業計画	5年間（編入の場合は3年間）に学位論文を完成させることを目標に初年度初めに計画を立てるとともに、必要が生じた場合は、随時修正を加えつつ、目標の達成を目指す。
授業の方法	当該の学生が論文で取り扱うテキストなどを正確に理解することができるよう、読解の指導を中心的に行う。また、論文の進展状況を随時報告させ、問題点をチェックする。
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11009
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	火曜日4時限目 木曜日3時限目 金曜日2時限目
担当教員氏名	津田 眞一 教授
授業の目的・概要	各人の論文製作作業の進行状況に応じて指導する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11010
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業の目的・概要	MA/PhD tutorials are organised on a one-to-one basis following a syllabus designed to focus on each student's research area. We shall read and analyse primary and secondary sources relevant to the student's MA/PhD thesis. The student is supposed to submit periodically essays or show parts of the MA/PhD thesis in order to assess his/her progress and discuss possible ways of improving it.
授業計画	To be decided with each individual student
授業の方法	The student is required to prepare beforehand the materials we decide to read together. When scheduled to present an essay/part of the thesis, the student is required to send the draft a week in advance (by e-mail or post) so that we could discuss possible ways of improving it when we meet for the tutorial.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	To be decided with each individual student
参考文献	To be decided with each individual student
履修上の注意	The MA thesis must be a serious academic essay, logically written and proving that you are fully familiar with your subject. The PhD thesis must be an original contribution to your area of research based upon meticulous work and meeting the highest standards of academic criteria on the international arena. It is a huge amount of hard, but hopefully rewarding, work. Do your best! 學如不及
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11011
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	松村 淳子 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆のための、適切なテーマの設定、必要なプロセスを指導し、論文内容の個別の問題について討議し、学位論文の完成を目指す。
授業計画	論文のテーマに応じた論点を見だし、それらについて、討議する。また必要な参考文献の読み方、論文執筆の技術的な点について指導する。
授業の方法	論文執筆は、あくまでも本人の努力が第一である。自ら先学の論文・著書に学び、また扱う文献を丁寧に読むことが第一である。指導なので、特に授業の方法は定めず、必要に応じた指導を行う。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
履修上の注意	欠席する場合は出来る限り事前に連絡すること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11012
科目名・単位数	仏教文献学方法論 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	東アジア仏教写本の比較文献学的研究
授業の目的・概要	<p>古代から中世に及ぶ東アジア仏教圏では、漢語仏教文献が幅広く伝播、流通したが、それらの多くは散逸し今日に伝わらない。しかし、敦煌から発見された六万点の文献資料はその間の欠を補う貴重な文化財資料である。かくして我々の視点と興味は敦煌に向かいがちであるが、実は日本の古刹や諸文庫に秘蔵されている文献資料も、それらを集成するならば敦煌に十分比することが出来るばかりでなく、遙かに凌駕する分野も存するのである。また、これらを等しく検討する立場を有するならば研究に大きな益をもたらすことは明らかである。例えば、知恩撰とされる唐代の金剛般若経注釈書である『金剛般若経依天親菩薩論贊略釈本義記』（上下二巻）は敦煌本（Pelliot.2159）に巻上が残っているが、日本の高山寺には南宋の刊本が上下二巻とも所蔵されているのである。</p> <p>このような現象は、嘗ての共通文化圏を有していた東アジア仏教文化圏を想定するならば当然のことと受け止められるであろう。さらに、隋・唐・五代・宋・元・明と続く王朝の連続性の中に朝鮮半島の仏教文化も重要な役割を果たしていることに気がつくであろう。今日の韓国には仏教写本は殆ど報告されていなかったが、それでも近年では慶州仏国寺の石塔から発見された写本や、海印寺の胎内から発見された白紙墨書写本などは極めて重要な仏教文献資料であることが明らかになりつつある。</p> <p>以上のような視点に立ちつつ種々の仏教写本を考究して行く予定である。</p>
授業計画	<p>まずは、受講者の研究能力と関心の方向とを見定めて、東アジア仏教文化圏を代表する写本を選定し、その関連文献の説明を行う。そして、写本を配布し、写本読解の要諦を示し、読解の担当者を決めて進めていく。</p> <p>毎回の受講者の発表の程度に応じて適切な方法を示し、写本をはじめ扱う受講者がスムーズに研究できるよう配慮する。</p>
授業の方法	<p>写本を一字一字丁寧に読み進めていく。文字の確定は、書体の位置づけと文脈とが合致した時にはじめて成立するものである。写本に特有の訂正符や倒置符などに十分配慮するとともに親本（書写テキスト）の諸相を考慮し、さらに諸本との校注を成して校訂本へもっていく。</p> <p>このようにして成ったテキストデータを既存データベースと比較検討し、その文献が成立した思想的背景に踏み込んでいくことが肝要であり、いたずらに量的成果に走らないようにする。</p>
成績評価方法	レポートにて通年で評価
テキスト	適宜配布

参考文献	『敦煌学大辞典』、池田温『中国古代写本識語集録』、拙稿「唐代における金剛般若経の注釈書について」（『宮沢正順博士古稀記念 一東洋比較文化論集一』）
履修上の注意	関係諸論文は徹底的に集め参照すること。
連絡方法	メール（アドレスは授業時に通知する）

科目番号	11013
科目名・単位数	仏教文化学方法論 2単位
時限	金曜日2時限目（夏学期のみの開講）
担当教員氏名	安田 治樹 講師（立正大学教授）
授業題目	インド仏教美術史講義（古代初期・中期）
授業の目的・概要	周知のように、インド古代期（前500頃-後650頃）の美術は殆ど仏教によって独占される。もともと、そうした仏教の造形活動も、必ずしも釈尊在世中に興ったわけではなく、重要な仏陀の像-仏像にしても、釈尊滅後500~600年の間は種々の理由から、いっさい形象化されなかった。本講義では、仏教美術の始源から、無仏像をもって特徴づけられる古代初期の特異な様相をうかがい、古代中期、塞外族クシャーン朝治下のガンダーラ、マトゥラーの両地で仏像が起源するに至る、その間の動向をたどる。仏教と造形活動の社会経済的關係、クシャーン朝の年代観、仏像の起源論争等、インド仏教美術展開の初期相理解の観点から、必要とすべき諸点にわたって考察する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 釈尊入滅後の舍利崇拜、アショーカの起塔事業</li> <li>(2) 仏塔の荘厳、仏教的主題としての仏教説話図</li> <li>(3) パールフットの浮彫仏教説話図の銘記と「仏陀なき仏像図」</li> <li>(4) 古代初期における無仏像表現の諸相</li> <li>(5) 仏陀観の進展と阿羅漢不可視の思想</li> <li>(6) サータヴァーハナ朝と西インド仏教窟院</li> <li>(7) 仏教の流通伝播とインド西北地方</li> <li>(8) クシャーン朝の台頭とグレコ・ローマン美術</li> <li>(9) ガンダーラにおける仏像の起源</li> <li>(10) カニシュカ登位年代</li> <li>(11) 宗教都市マトゥラーと造像の伝統</li> <li>(12) マトゥラーにおける仏像の起源</li> <li>(13) ガンダーラ仏とマトゥラー仏の様式対比</li> </ol>

	(14)仏像の起源論争 (15)総括
授業の方法	作品紹介、理解のため、スライドまたはパワー・ポイントによる映像資料を交え、概ね上記の計画に従い、講義形式で進める。
成績評価方法	平常点と期末レポートを勘案して評価。
テキスト	テキストは用いない。随時下記参考文献を参照。
参考文献	W.W. Tarn, <i>The Greeks in Bactria &amp; India</i> , Cambridge, 1938. J.E. van Lohuizen-de Leeuw, <i>The "Scythian" period</i> , Leiden, 1949. A.K. Narain, <i>The Indo-Greeks</i> , Oxford, 1957. J.Marshall, <i>The Buddhist Art of Gandhāra</i> , Cambridge, 1960. J.M. Rosenfield, <i>The Dynastic Arts of the Kushans</i> , Berkeley and Los Angeles, 1967. 高田 修『佛像の起源』岩波書店、1967年 A. L. Basham ed., <i>Papers on the Date of Kanīṣka</i> , Leiden, 1968. J.C.Harle, <i>The Art and Architecture of the Indian Subcontinent</i> , The Pelican History of Art. London, 1986. 『世界美術大全集 東洋編』インド(1)(2) 小学館 1999・2000年
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	1 1 0 1 4
科目名・単位数	仏教文化学方法論 2 単位
時限	火曜日 3・4 時限目 (冬学期のみ集中講義として開講)
担当教員氏名	Giovanni Verardi (Visiting Professor)
授業題目 (Course Title)	The history of Buddhism in India on the basis of the archaeological and iconographical sources and of the Brahmanical texts.
授業の目的・ 概要 (Course Objectives / Overview)	<p>Of the history of Indian Buddhism we still know very little, this regarding both its chronology and also the events that ultimately led to its disappearance from the subcontinent.</p> <p>The evidence provided by field archaeology often challenges the received paradigm, and as to icons, Brahmanical iconographies tell us a complex story (which remains largely to be explored) on the relationship between Buddhism and Brahmanism. Although strictly dependent on texts (the epics, the Purāṇas, the early medieval poetry of Tamil Nadu, etc.), iconographies often speak more clearly and allow us to contextualize and verify historical events.</p> <p>The objective of the course is thus to provide a fresh view on some aspects of the history of Buddhism in India that can ultimately throw some light on eastern Asian developments.</p>
授業計画 (Schedule)	<p>The following are the main points raised in the course:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. The history of Indian Buddhism as understood in the last two centuries, changes of historical paradigms, and open questions (introductory lesson).</li> <li>2. Importance of the archaeological evidence: a) the question of the date of the historical Buddha; b) destruction of Buddhist sites.</li> <li>3. History of India in outline up to the thirteenth century: rise of Brahmanical dynasties and their hostility to Buddhism.</li> <li>4. Importance of Brahmanical sources, especially those on the 'Kali Age', identified with the period of Buddhist hegemony over the country.</li> <li>5. Historical sources combined with archaeology and art history: a reappraisal of the history of Gandhāra.</li> <li>6. Iconography and iconology: icons and monuments bearing on the history of Buddhism (Kancipuram, Ellora, Bhubaneswar, <i>yoginī</i> enclosures, etc.)</li> <li>7. Not only <i>siddha</i>-s: political and social meaning of the Vajrayāna.</li> <li>8. The Muslims, the <i>tīrthika</i>-s, and the final collapse of Indian Buddhism.</li> </ol>
授業の方法 (Teaching Method)	The lessons shall be supported by PowerPoint presentations, not only to display images but also the English text of the lectures.

	<p>Brahmanical texts in English translation shall be read during class.</p> <p>Short summaries of the lectures shall be handed over to the students one week beforehand to allow them to form an idea on what shall be discussed the following week.</p>
成績評価方法 (Method of Evaluation)	By active participation.
テキスト (Requested Textbook)	Giovanni Verardi, <i>Hardships and Downfall of Buddhism in India</i> . Manohar Publishers. New Delhi 2011. [parts of the book]
参考文献 (Reference Books)	<p>The subject matter touched upon in the course is too vast for a meaningful set of references to be given. Mention is made here of a few books, besides referring the reader to such journals as <i>The Indian Antiquary</i> (Bombay 1872-1933), <i>Epigraphia Indica</i> (Calcutta, New Delhi 1892-1977/78), Alexander Cunningham's <i>Archaeological Survey of India Reports</i> (Simla, Calcutta, 1871-1885; Index vol. 1887) and <i>Archaeological Survey of India, Annual Reports</i> (Calcutta, Delhi 1902-3 [1904] -1938-39 [1941]).</p> <p>Banerjea, Jitendra Nath (1956) <i>The Development of Hindu Iconography</i>. University of Calcutta.</p> <p>Bechert, Heinz ed. (1991-92) <i>The Dating of the Historical Buddha. Die Datierung des historischen Buddha</i> (Symposien zur Buddhismusforschung 4, 1 and 2; Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, Phil.-Hist. Kl., dritte Folge, 189). Göttingen. [esp. vol. 1, pp. 61-89; 222-36].</p> <p>Jayaswal, K[ashi] P[rasad] (1933) <i>History of India (150 A.D. to 350 A.D.)</i>. Lahore.</p> <p>Rao, T.A. Gopinatha (1914-16) <i>Elements of Hindu Iconography</i>, 2 vols. in 4 tomes. Madras.</p> <p>Willis, Michael D. (2009) <i>The Archaeology of Ritual. Temples and the Establishments of the Gods</i>. Cambridge.</p>
連絡方法 (Contact)	verardigiovanni@gmail.com

科目番号	11015
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究 4単位
時限	月曜日3時限目
担当教員氏名	松村 淳子 教授
授業題目	パーリ仏教経典の研究
授業の目的・概要	パーリ語仏教文献の概要、成立史、伝承・思想の展開について学びながら、代表的な経典を取り上げて読みながら、パーリ語を身につけることを目指す。特にスリランカの仏教は、紆余曲折を経ながらも紀元前3世紀以来伝承が途切れることなく続いている最も古くて長い伝統をもつものであり、その概要を学ぶことは北伝仏教を含めて仏教の歴史的展開を学ぶためにも有意義である。また、パーリ語初学者のために、パーリ語文法の習得にも配慮して授業を進める予定である。
授業計画	前期は、長部2のサーマンニャパラ・スッタ（沙門果經）を読みながらこの経典に説かれる仏教の基本思想を理解する。また注釈書（アッタカター）および、対応する漢訳経典とも比較し、パーリ語の文法、サンスクリットの対応を意識した語義、漢訳語との対応を学ぶ。授業の1回目はオリエンテーションとし、最終回は総括とする。 後期は、同じく長部17のマハースダッサナ・スッタ（大善見經）を読む。関連するジャータカ、中部経典も参照しつつ、仏教における過去佛や菩薩の前世（ジャータカ）の持つ意義を考察する。前期と同じく1回目はオリエンテーションとし、最終回は総括とする。
授業の方法	上座（パーリ）仏教文献の歴史の概観を講義した後、テキストを読みながら、パーリ語の理解、仏教用語の理解、そして思想の理解を深めていく。授業の具体的な運営は、講義と同時に本文を読むゼミ形式とを合わせた形とする。受講者はテキストの予習をし、授業への積極的な参加に努めていただきたい。
成績評価方法	平常点またはレポートにて通年で評価
テキスト	プリントを使用する。
参考文献	G. P. Malalasekera, The Pali Literature of Ceylon, Colombo; 1928 O. von Hinüber, A Handbook of Pali Literature, 1996 水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』、『パーリ語文法』は必携
履修上の注意	予習をして理解を深めるよう努力してください。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11016
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 4単位
時限	火曜日2時限目
担当教員氏名	松村 淳子 教授
授業題目	初期仏教文献研究
授業の目的・概要	華嚴経入法界品 (Gaṇḍavyūha) を、サンスクリット本を中心とし、漢訳経典の対応箇所と比較しながら読む。『入法界品』は、『十地経』と並んで『華嚴経』の中心部分を成しており、善財童子が善知識を求めて旅した場所は南インドとの関係が深い。また構成・内容自体には、仏教の説話文学との関係が顕著に見られる。初期大乘経典成立に果たした南インドの様々な階層の仏教徒の意識・思想と、説話が大乘経典の枠組みにどのように利用されたかを読み取りつつ、大乘仏教興起・成立について考察する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 初期大乘仏教文献の概説。</li> <li>(2) 華嚴経関係文献の成立と構成の概説。</li> <li>(3) まず、サンスクリット文『入法界品』を、漢訳仏教語を通じた固定観念を排して、インド・アーリヤン民族の文化背景を踏まえつつ読む。</li> <li>(4) サンスクリットと漢訳諸本を比較し、訳者、訳語、漢訳年代などの諸問題を考察する。</li> </ol>
授業の方法	サンスクリット・テキストは鈴木・泉本を用い、1回の授業で2～3ページを目安として講読し、六十華嚴、八十華嚴、四十華嚴の対応箇所と比較する。受講者は各自、テキストを予習してサンスクリット語仏教文献の読み方を学ぶ。必要に応じて、仏教の専門的な述語、表現について講義する。また、ボロブドゥルのレリーフ等、美術資料を参照し、視覚イメージ的にどのように内容が理解されていたかを考察する。
成績評価方法	平常点またはレポートにて通年で評価
テキスト	プリントを用意する。
参考文献	平川彰、梶山雄一、高崎直道編 『講座・大乘仏教3 華嚴思想』春秋社。その他、授業において指示する。
履修上の注意	サンスクリット文法の復習をしておくこと。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11017
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	津田 眞一 教授
授業題目	如來藏思想の研究：仏教思想の解釈学的再建(Ⅱ)
授業の目的・概要	<p>如來藏思想の研究は、その基本資料『宝性論』に限って言うならば、宇井伯寿博士・高崎直道博士をはじめとする内外の諸先学の信頼すべき先行研究によってその文献学的基礎がほぼ完全に頼備され、いよいよ我々研究者によってそれぞれの立場からその思想的本質の究明がなさるべき段階に至ったものと了解される。</p> <p>本講担当者は如來藏思想を、大乘仏教からの critical な展開を示す『法華經』の、神としての如來の實在の宣明の段階を承けて、その神・如來の概念を論ずるところの、いわば仏教神学の立場を示すものとして、それを『法華經』とともに〈大乘以後〉の仏教、と規定するものであるが、本講は如來藏思想についてのこの先行的了解を、それを担当者自らの原理的な仏教思想史の全体像の中において自ら確認し、さらに自ら批判しつつ、事態の根本的な認識に迫ろうとするものである。</p>
授業計画	<p>如來藏思想が『法華經』を承けてその後半をなすところの〈大乘以後〉の仏教の、先行する大乘仏教からの転換点は『法華經』「方便品」における「願成就」という神話的な表象を根拠とする（「私の願が成就している以上、汝らはすでに私と同じ仏なのだ」という）宣明（「方便品」第60,61 偏）と、続いて提示される「小善成仏」の事態を支へるべき本覚的事態の實在論的な根拠の観念との間に存在するものと予想される。この「實在論的根拠」は『法華經』それ自体においては主題的に表明されることはなく、その表明は如來藏思想においてなされる。</p> <p>本講は如來藏思想の世界像的構制を担当者自身の〈二世界説〉の共通図式の中に置いて、前行する大乘仏教のそれと、後続する密教のそれとの間に置いて、いわば外側からその特殊性を画定するという解釈学的作業を行う。</p>
授業の方法	講義形式で行う。しかし、受講者は自ら関連する著書や論文を積極的に読み、出来得る限り各自の意見を用意しておくこと。質問・討議が活発に行われることを希望する。
成績評価方法	レポートにて通年で評価
テキスト	担当教員がタイプ打ちをしたものを事前に配布する。
参考文献	必要に応じてその都度提示する。
履修上の注意	いきなりは理解できなくても辛抱して講義を聞くこと。この講義に勘えられないようでは自らの博士論文の執筆・完成はおぼつかないものと考えること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11018
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
時限	月曜日3時限目
担当教員氏名	今西 順吉 教授
授業題目	『俱舎論破我品』の研究
授業の目的・概要	『俱舎論』の「破我品」は詳細に有我説批判を展開している点で古来注目されてきた。そもそも仏教は無我を基本とするので、必然的に仏教教理を説く中で我の批判がなされている。しかしことさら特定の有我説を取り上げて批判するために特に章を立てるのは、前例が皆無ではないにしても、異例と言うべきである。特に『俱舎論』は教義の体系的論述を意図しているのであるから、なおさらその感が深い。著者ヴァスバンドゥフは「破我品」論述にどのような目的があったのであろうか。「破我品」の解説を進めながら、この問題を『俱舎論』のみならず、仏教史・インド思想史の中で考察する。
授業計画	「破我品」全体を読み終える。
授業の方法	「破我品」のサンスクリット語原典を中心に、チベット語訳・漢訳及び注釈書を参照しながら読み進める。その際に、テキストの論述の背景をなす仏教史・インド思想史の資料を併せ考察する。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	必要に応じてその都度提示する。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11019
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
時限	金曜日4時限目
担当教員氏名	津田 眞一 教授
授業題目	梵・漢・藏三本対照『法華経』「見宝塔品」講読 続講
授業の目的・概要	各人の博士(文学)学位請求論文のテーマが現実にかかるといえるものであるにせよ、その論文作製の現実にとって絶対不可欠の条件をなすものは、文献解読に際しての解釈学的方法論の自覚にもとづくサンスクリット文献解読の訓練の経験を有していることである(漢訳資料のみに依る場合でもその解読には一種の完全言語であるところのサンスクリット文献に対するときの解釈学的配慮が必要である)。本授業はそのサンスクリット文献の解読の実地において文献解釈というわれわれの仏教学の営為の原理的な確認を行う。なお、その教材として昨年度に続いて『法華経』を選んだのは、それがその文体の異例さとそこに伏在している筈の思想の端倪すべからざる“深さ”の故にそれを解読しようとする者に最大の解釈学的配慮を要求するものであるからである。
授業計画	本年度は昨年度の「法師品」を承けて「見宝塔品」に進む。此品はかつてそれを『法華経』テキストの形成の最初の部分に擬する意見があったことから解るように、その神話的な叙述において依然として多くの問題を残している現行『法華経』の成立問題ないしはその体系構成の問題の解明に関して、われわれが検討しなければならない重要なヒントのいくつかを伏在せしめている如くに見受けられ、われわれの解釈学的な興味を引く部分である。本授業はまず『法華経』全般の構造と「迹門」の尖端をなす「方便品」の思想、そして「本門」の中心をなす「如來寿量品」にほめかされるその世界構造に関して、担当者が現在有しているかぎりの認識を述べ、その仮説的な全体像の中に置いて「見宝塔品」の原文解読とその神話的表象の意味の解釈とを行う。
授業の方法	演習形式で行う。各週でそれぞれの発表者を定め、順次発表を行う。 原文に対してはすでにいくつもの日本語訳ないし英訳が存在するので、発表者はそれらを批判的に参照しつつ自らの訳を開陳してそれを担当教員をはじめとする出席者全員の批判に委ね、自らの訳文の更なる練成に努める。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	担当教員がタイプ打ちをしたものを事前に配布する。
参考文献	中央公論社刊『大乘仏典』所収の『法華経』Ⅰ、Ⅱ 岩本裕訳 岩波文庫所収の『法華経』上、中、下 その他
履修上の注意	演習は一にも二にも自ら予修・準備をすることが大切である。各自最大限の努力をすること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11020
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
時限	火曜日 5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	守其撰『校正別録』の研究
授業の目的・概要	<p>再雕本の高麗大蔵経は、厳密な校訂を経て編纂鏤刻された版本一切経として著名である。そのために大正蔵の底本に採用され、その地位を不動のものとした。その評価の原動力となったのは高麗版編纂者守其の『高麗国新雕大蔵校正別録』三十巻に他ならない。加えて、日本で江戸時代に鉄眼版（黄槩版）との校訂を行った法然院忍徹、また十一年の日月を費やして徹底的な校讐を実施した丹山順藝の不撓不屈の偉業とによるものである。</p> <p>『高麗国新雕大蔵校正別録』は簡易な文章でありながら、内容が理解し難い書であった。それは文献に関する具体的な指摘や注意が随所に見られるからである。対象となった『開宝藏』（北宋勅版大蔵経）が散逸し、高麗初雕本も零本扱いという資料的窮乏の中にあっただからである。ところが、高麗大蔵経研究所の努力によって約1,800巻の高麗初雕本が確認され、それらがデータベース化されたことによって、この些か判読し難い書物が読めるようになってきたのである。</p>
授業計画	受講生の意見を聞きながら、『校正別録』が取り上げた書目の中から相応しい対象経典の校正文を選んでいく。校正文の言おうとしている内容を吟味し、対象経典の諸本を系譜論の立場から集め、比較対象する。
授業の方法	文献学的方法に徹して行う。文献学的方法とは、ミクロ的視点からは文字の形および異同、またその意味である。マクロ的視点からは教説内容、構成の枠組みとなる。この両者を相互に行き来して対象書目の問題点を摘出し、思想的意義を与えることにある。
成績評価方法	レポートにて通年で評価
テキスト	高麗大蔵経（再雕本）所収『校正別録』
参考文献	気賀澤保規編『中国仏教史経の研究』
履修上の注意	関係諸論文は徹底的に集め参照すること。
連絡方法	メール（アドレスは授業時に通知する）

科目番号	11021
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
時限	水曜日4時限目
担当教員氏名	木村 清孝 特任教授
授業題目	成唯識論述記講読
授業の目的・概要	本年度は、中国仏教の基本文献の一つである『成唯識論述記』を購読する。本書は、玄奘訳『成唯識論』に対するもっとも権威ある注釈とされ、法相教学のよりどころとなっている。本書の講読を通じて、法相教学の基本思想を学修するとともに、仏教漢文文献の正しい読み方を習得してもらうことを目指す。
授業計画	初めに法相教学の仏教思想史上の位置とその意義について概説した上で、テキストを丁寧に冒頭から読んでいく。必要に応じて、他の代表的な注釈も参照する。毎週2頁前後進めることを目標にする。
授業の方法	毎回、発表担当者を決めて訳注を作らせ、その発表を中心に議論していく。関連する諸思想にも随時触れたい。
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
テキスト	会本『成唯識論』第一（仏教大系刊行会編）
参考文献	必要に応じて指示する。
履修上の注意	基礎的な漢文読解力を有すること。予習必須。
連絡方法	初回の授業の際に説明する。

科目番号	11022
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
時限	木曜日2時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	『大乘義章』のテキスト研究
授業の目的・概要	<p>中国南北朝の仏教教学を集大成した『大乘義章』は日本においても古来より研究者の座右の書として珍重されてきた。従来『大乘義章』のテキストは『大正蔵』本が唯一であり、それが用いられてきた。それではその底本や対校本は何であろうか。底本は江戸時代の版本であり、対校本はその江戸版本に或人物が注記を書き込んだ書が用いられている。これだけ重要な書物が版本だけしかないのは実に驚くべき現象である。</p> <p>『大乘義章』の古写本が少なからず各地の古刹に存しているにもかかわらず、文献学的報告は全くなされていない。それでは古写本は単なる反故紙に過ぎないのであろうか。</p> <p>本講義で取り上げるのは院政期写本とされる金剛寺本『大乘義章』であるが、この内容が現行本（大正蔵本）と構成を異にするばかりでなく、逸文も見られ大変興味深い。写本を読み解きながら南北朝の地論宗を中心とした動向を探っていきたい。</p>
授業計画	<p>『大乘義章』に関する先行論文を集成し、批評会を行う。</p> <p>大正蔵本とその底本である江戸時代版本と比較する。次に対校本を複写してその問題点を明らかにする。さらに版本の構成を検討し問題点を探す。</p> <p>古写本の現況状況を蔵書目録等で博捜し、探し得た写本は可能な限り複写もしくは撮影をして資料を入手する。</p> <p>大正蔵本と古写本との概要比較を行う。この作業においては、細部の文字の異同等に触れずに進める。</p> <p>章品立ての相違があればそれが生じた理由を探り解明していく。</p> <p>逸文を集成し、その解読研究を進める。</p>
授業の方法	<p>受講生は、諸本の収集や複写を分担して行う。版本と写本の相違点を摘出し、その解明にあたる。第1には構成上の問題点である。これを研究し、各自意見を発表する。第2には逸文の訳注研究を進め、それが思想史上どのような意味を持つか考察し、授業時に発表する。</p>
成績評価方法	レポートにて通年で評価
テキスト	金剛寺蔵写本、随心院蔵写本、延享二年刊本、大正蔵44巻、
参考文献	国訳一切経本。『異体字辞典』『敦煌俗字典』『類聚名義抄』
履修上の注意	関係諸論文は徹底的に集め参照すること。
連絡方法	メール（アドレスは授業時に通知する）

科目番号	1 1 0 2 3
科目名・単位数	汎アジア仏教文化学研究 4 単位
時限	金曜日 3 時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	The <i>Laṅkāvatārasūtra</i> 楞伽經: Text, History, and Philosophy
授業の目的・概要	<p>The <i>Laṅkāvatārasūtra</i> belongs to the late strata of Mahāyāna literature, its formation most probably dating to the end of the 4<sup>th</sup> and the beginning of the 5<sup>th</sup> century. Doctrinally, it represents a fusion of the Yogācāra system with the Tathāgatagarbha philosophy. The sutra had a major impact on later Buddhist literature not only in India but also in Tibet and East Asia. The Chan/Zen tradition, for example, has often regarded the <i>Laṅkāvatārasūtra</i> as a major source of scriptural authority.</p> <p>This year we shall read the <i>Rāvaṇādhyeṣaṇāparivarta</i> Chapter in Sanskrit (Nanjio ed. and several old manuscripts), Tibetan, and Chinese (all extant versions), paying close attention to all philological details as well as to the main cultural aspects and philosophical ideas.</p>
授業計画	<p><b>Spring Semester</b>  Classes (1)~(3): The <i>Laṅkāvatārasūtra</i> in the history of Indian Buddhism  (4): The <i>Laṅkāvatārasūtra</i> in Tibet and East Asia  (5)~(6): Extant Sanskrit manuscripts and editions  (7)~(8): Excursus on Mediaeval Indian Palaeography  (9)~(10): Tibetan translation and Chinese versions  (11)~(15): Reading, editing, and annotating the <i>Rāvaṇādhyeṣaṇāparivarta</i></p> <p><b>Autumn Semester</b>  (1)~(15): Reading, editing, and annotating the <i>Rāvaṇādhyeṣaṇāparivarta</i></p>
授業の方法	During the first part of the course, i.e. classes (1) to (10), I shall lecture upon the subjects noted above. In the second part of the seminar dedicated to reading, editing, and annotating the original text and traditional translations, students will be required to prepare in advance. (Students should have working knowledge of at least one of the major canonical languages necessary for the course, i.e. Sanskrit, Classical Tibetan, or Classical Chinese.)
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Original handouts containing relevant materials will be distributed in class.
参考文献	B. Nanjio ed., <i>Laṅkāvatāra Sūtra</i> (More materials and secondary literature will be presented in class)
履修上の注意	Work hard! 學如不及
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11024
科目名・単位数	汎アジア仏教文化学研究 4単位
時限	月曜日3時限目
担当教員氏名	藤井 教公 講師（北海道大学教授）
授業題目	中国三教交渉史研究
授業の目的・概要	中国南北朝時代における儒仏道三教交渉の様相を知るために北周の道安の著作『二教論』（『広弘明集』所収）を講読する。同書は儒仏道三教のうち、道教を批判して儒教と仏教の二教を称揚する内容となっており、六世紀後半の北朝における道教の実態を示すのに重要な資料である。本文内容は典拠を踏まえての表現が多く、広く漢籍全体に目を配ることが必要である。
授業計画	初めの3回までに中国南北朝時代の三教交渉について概観し、道教のアウトラインについて講義する。それ以後は『二教論』を講読するが、テキストの説明と同時に本書成立の背景について講義する。そして本年度は全十二篇あるうちの「詰驗形神第四」から講読するが、その前に、第一篇から第三篇までの要略を示す。
授業の方法	講義とテキスト講読の両形式で行う。『二教論』のテキストには古い国訳があるが、訓読や用字の誤りが散見されるので注意が必要である。『大正蔵』巻五十二所収のテキストに依り、国訳を傍らに置いてその国訳の誤りを正すという方法で進めたい。典拠のある引用援用は可能な限り出典の調査をする。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	教場でコピーを配布
参考文献	教場にて指示
履修上の注意	特になし。
連絡方法	メールによる。kfujii@let.hokudai.ac.jp

科目番号	1 1 0 2 5
科目名・単位数	汎アジア仏教文化学演習 4 単位
時限	金曜日 4 時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	Sanskrit Language and Poetics
授業の目的・概要	<p>In the Brahmanic and Hindu tradition, Sanskrit is considered to be <i>the</i> most refined and supreme linguistic tool for conveying the highest truth and sublime beauty. In India, this linguistic supremacy has been preserved to our days. Though not a canonical language for the earliest Buddhist community, Sanskrit, first in hybrid varieties, began to be used in Buddhist scriptures with increasing frequency from around the 2<sup>nd</sup> and 1<sup>st</sup> centuries BCE on. Much of the middle and late Buddhist literature came to written in classical Sanskrit, and a profound appreciation of this religious and philosophical heritage is only possible by mastering this admittedly difficult but superb language as well as by understanding its incredibly rich poetical range.</p> <p>The first part of the seminar will be dedicated to an introduction to classical Sanskrit. The second part will focus on traditional Sanskrit poetics. I hope that this introductory seminar will help students better understand and appreciate the depth and beauty of Sanskrit Buddhist sources.</p>
授業計画	<p><b>Spring Semester</b>  Class (1): History of the Sanskrit language  (2)~(4): Phonology, Script, Sandhi  (5): Outline of grammatical structure  (6)~(11): Declension  (12)~(13): Word formation  (14)~(14): Conjugation</p> <p><b>Autumn Semester</b>  (1)~(7): Conjugation  (8)~(9): Syntax  (10)~(15): Sanskrit Poetics</p>
授業の方法	I shall first introduce and explain the subjects noted above. Students will be expected to prepare homework and take periodical tests. As they grow familiar with the language, we shall also work on translations from Sanskrit sources. In the latter part of the seminar, we shall also study and analyse various poetical figures as illustrated in literary works.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	M. Coulson, <i>Sanskrit: An Introduction to the Classical Language</i> A.K. Warder, <i>Indian Kāvya Literature</i> , Vol. I: <i>Literary Criticism</i>
参考文献	村上勝彦、風間喜代三『サンスクリット語・その形と心』 J. Gonda, <i>A Concise Elementary Grammar of the Sanskrit Language</i>
履修上の注意	<i>Jalabindunipātena kramaśah pūryate ghaṭaḥ</i> / '[It is] by gradually pouring drops of water [that even] a large pot is filled.'
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	11026
科目名・単位数	汎アジア仏教文化学演習 4単位
時限	月曜日4時限目
担当教員氏名	藤井 教公 講師(北海道大学教授)
授業題目	『維摩経文疏』研究 2011
授業の目的・概要	本講は、天台智顛の教学思想を『維摩経文疏』二十八巻を用いて検討しようとするものである。本書は智顛が最晩年に晋王廣(後の煬帝)に献上するために著したもので(ただし巻二十六以降は智顛示寂後の灌頂の補い)、智顛の教学思想を検討する際の重要な資料である。しかし、従来智顛『維摩経玄疏』や湛然『維摩経略疏』に比べてあまり顧みられず、国訳もいまだにない状態である。智顛後期時代の著作の多くは灌頂の手が入っており、智顛と灌頂の両者の教学上の区別をつけることは困難であるが、本書は智顛の親撰で、その内容は智顛自身の教学思想といえることができ、智顛教学の範囲を確定する一つの基準になり得るものである。本講は本書を講読することによって智顛の教学を検討する。
授業計画	第一回目から3回目まで、天台智顛の事績と著作について概説し、第4回目以降は、テキストの『維摩経文疏』を講読してゆく。国訳と訳注がないので、講読の際に原稿を作成していきたい。大部なので何年間か継続して講読し、ある程度まとまりができた段階で適当な媒体に掲載することを計画している。
授業の方法	最初は講義形式で進めるが、テキストの講読に入った段階で受講者による発表という形にしたい。ローテーションで担当者を決めるが、発表者には一定の書式で発表原稿を作成してもらう。授業はその原稿を検討して、添削修正するという形で進める。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	『新纂大日本統蔵経』巻十八所収の『維摩経文疏』を使用
参考文献	教場にて指示
履修上の注意	特になし。
連絡方法	メールによる。kfujii@let.hokudai.ac.jp

科目番号	11027
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理） 2単位
時限	水曜日3時限目（夏学期）
担当教員氏名	<p>代表者： 落合 俊典 教授</p> <p>今西 順吉 教授                      落合 俊典 教授  木村 清孝 特任教授              津田 眞一 教授  デレアヌ フロリン 教授        松村 淳子 教授  田中 ケネス 講師  （武蔵野大学教授 5月25日担当）  入澤 崇 講師  （龍谷大学教授 6月15日担当）  橋本 崇 講師  （東海大学准教授 7月 6日担当）</p>
授業の目的・概要	<p>仏教研究の方法として、アジア諸地域の古代中世文献を読み解き思想的研究を進めるばかりでなく、近現代の仏教研究の手法を学ぶこともまた重要である。仏教学は、宗教として広く認知されている仏教を研究する学問である。そこには、生死をキーワードとする学問体系が存しているとも言える。古代中世に研究された仏教の学問が、今日にそのまま生きていることの証左である。この授業によって専門分野だけに陥らない幅広い教養が身につくであろう。</p>
授業計画	<p>今年度の授業計画は、受講生が発表するセッションと本学教員が受け持つセッションとに分ける。さらに他大学、他研究機関の教員、研究者を招聘して仏教学および生命倫理の観点から講義が行われる。発表後に一定の時間を設け、自由な質問や討議を行う。</p>
授業の方法	<p>ペーパー、プロジェクター、ビデオ等を利用した多様な発表形式を取り、今日の研究発表の場に習熟するようにする。</p>
成績評価方法	<p>レポートにて評価</p>
テキスト	<p>各回、担当者がプリントを配布する。</p>
参考文献	<p>必要に応じて指示する。</p>
履修上の注意	<p>院生は、単位取得の有無にかかわらず、原則的に全員参加のこと。</p>
連絡方法	<p>メール（アドレスは授業時に通知する）</p>



---

関連科目

---

科目番号	11029
科目名・単位数	宗教哲学 4単位
時限	月曜日2時限目
担当教員氏名	鶴岡 賀雄 講師（東京大学教授）
授業題目	「宗教」と「哲学」の緊張関係をめぐって
授業の目的・概要	<p>仏教は「宗教」だろうか、それとも「哲学」だろうか——。仏教研究が本格的に始まった19世紀の西欧ではこのような問いが問われることがあった。その背景には、西欧における「宗教」であるユダヤ・キリスト教と、古代ギリシアに発する「哲学」との間の、現代にまで及ぶ長い緊張関係がある。本講義では、この「宗教」と「哲学」の緊張を孕んだ関わりをめぐる思索を「宗教哲学」という営みとして捉え、その歴史および現代的課題についての基礎的知識を提示したい。さらには、この問題が仏教理解・仏教研究にたいしてもつ意義を示唆したい。</p>
授業計画	<p>前期は、ユダヤ・キリスト教の伝統とギリシア哲学の交流・交錯という観点から、古代、中世、近代、現代における「宗教哲学」の大きな流れを講義する予定。</p> <p>後期は、そうした西欧の宗教哲学が、仏教からどのような刺激を受けたか、また仏教的伝統に養われた近代日本の哲学者、思想家たちが西欧の宗教哲学をどのように受け入れて新たな宗教哲学を構想したかについて検討したい。</p> <p>出席者の関心も考慮して、重要な宗教哲学文献の講読を行うこともありうる。</p>
授業の方法	講義形式で進めるが、文献購読を交えることもありうる。
成績評価方法	平常点またはレポートにて通年で評価
テキスト	特定のものはいない。
参考文献	授業中に適宜紹介する
連絡方法	e-mail:tsuruoka@l.u-tokyo.ac.jp

---

留学生のための日本語

---

科目番号	11101
科目名・単位数	日本語 I 4 単位
時限	火曜日 3 時限目・金曜日 2 時限目
担当教員氏名	杉浦 まそみ子 講師
授業題目	日本語 I (初級)
授業の目的・概要	<p>授業の目的は大学院留学生に必要な日本語の習得の支援にあり、将来専門的分野の日本語の習得へ進むために必要不可欠な基礎段階と位置づける。入門レベルから初級前半レベルの日本語知識をもつ留学生を対象とする。ひらがな・カタカナの読み書きは既習であることとする。まず、話し言葉・書き言葉によって一般的な日本語の理解と表現ができる能力、研究場面や生活場面で円滑なコミュニケーションができる能力を養う。</p> <p>4 技能は、聞く・話す・読むをまず確実にを行い、最後に書くことによって学んだことを確認していく。漢字は出身言語圏にもよるが、最低 300 以上の漢字を読み、書く能力、または、新日本語能力試験 N4 レベル程度を目指す。</p>
授業計画	<p>前半期は初級後半レベルのテキストに沿って基本的な語彙、表現、基本文法、漢字の読み方を学ぶ。中上級へ進む準備を常に念頭におき、一度学んだ学習項目を忘れないよう、練習問題等を利用して繰り返し練習する。</p> <p>後半期は、読み中心の教材も併用し、語彙、表現、文法の拡充と、内容の理解能力の向上をめざす。授業を通して円滑なコミュニケーション能力や正しく話す技能の向上のために、その課のトピックについて口頭で意見を述べ合い、互いに検討する。宿題としてトピックに関する自分の意見をまとめて書く課題を課す。</p> <p>後半期に与えられた題目での簡単なスピーチを行う予定。 テキストは受講者のレベル等を考慮して選定する。</p>
授業の方法	<p>授業は、文字を読み、音声聞いて、理解することから始め、自分の考えを音声で表現するコミュニケーション能力の向上を目指して授業を進める。テキストでは次の流れで進める。事前タスク後に (1) テキストの読み方を確認し、各課の語彙、表現を学び、文を理解する。(2) 学んだ表現を練習し、実際に使う。(3) 課のトピックに関連して、意見を述べる。それを文章に書く。(4) 並行して、必要な者は漢字を学ぶ。</p> <p>後半は必要に応じて教科書の他に副読本を用いる。</p>
成績評価方法	平常点および日常の提出物にて通年で評価
テキスト	『中級へ行こう』スリーエーネットワーク、または『げんき』II The Japan Times ほか
参考文献	初回授業で紹介する。
履修上の注意	予習、復習をして、テキストの学習項目をしっかりと理解してください。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	1 1 1 0 2
科目名・単位数	日本語Ⅱ 4単位
時限	火曜日2時限目
担当教員氏名	杉浦 まそみ子 講師
授業題目	日本語Ⅱ（中級）
授業の目的・概要	<p>日本で専門的研究を円滑に進め論文を作成するなど、充実した留学生活を行うために必要な日本語の習得支援を目的とする。同時に、大学院生は常に研究生活のさまざまな場面－講義・研究室・研究会など－に積極的に参加することを求められる。こういった場面に一日も早く参加できるよう、必要な日本語表現の学習も進める。</p> <p>技能面では、聞く・話す・読む・書くという4技能を偏りなく身につけることを目標とする。出身が非漢字圏か漢字圏かによって技能面に得手、不得手がある場合もあるが、教室内で学習者同士が互いに足りないものを補い学び合う気持ちで日本語学習を行う。</p>
授業計画	<p>大学院レベルの文章に慣れるために、主として『大学・大学院生の日本語1－読解編』を用い、論文の基本的構造、段落ごとの意味、全体の意味をつかむ練習をする。（1）論文に用いられる語彙、表現を身につける。（2）中上級の文法項目を学ぶ。（3）各課のトピックに関連して自分の意見を説明し、学習者間で検討をする。（4）自分の意見や関連するテーマについて2、300字程度にまとめて書く。以上の作業を通して、さらに上級日本語を目指す。</p> <p>他の教科書で他の中上級の文法項目（概ね新日本語能力検定試験N2～N3レベル）を確認しつつ進める。</p>
授業の方法	<p>常に日本語で理解し、論理的に意見を述べる練習をすることを念頭におきながら授業を進める。通常の授業は、前回の復習－課の導入と理解－意見発表－作文（宿題）の流れで行う。</p> <p>（1）前回の復習－学んだ部分を簡単に口頭でまとめ、理解を確認。書き取り。</p> <p>（2）新しい課 a 導入－事前タスクで内容への興味を喚起する。b 本文－読み方、語彙、文法、文、段落の意味を確認。論文構成の確認と論文全体の意味（筆者の意図）の確認。c 練習－語彙、文法等。</p> <p>（3）終わりに、論文内容に対する意見を述べ、互いに検討する。</p> <p>以上の流れを基本とする。宿題として意見の記述を求める場合もある。読んで理解したことに対し常に検討を加え、論理的に見解を述べる（書く）、新たな問題を探る力を養う。</p>
成績評価方法	平常点および日常の提出物にて通年で評価
テキスト	『大学・大学院留学生の日本語1 読解編』アルク出版、その他
参考文献	初回の授業で紹介する。
履修上の注意	毎日の規則的な学習が必要です。読み方の予習をしてきてください。授業後は必ず復習をして、教室で学んだことを確認してください。
連絡方法	初回の授業で説明する。